



「FAMILY PORTRAITS 日本・相模原市のK家」  
デジタル銀塩プリント  
2014

## 平成27年度 女子美術大学大学院博士後期課程 研究作品展

イ・ユンジ LEE Yoonji

2016年2月11日(木・祝)～2月16日(火)  
会期中無休 10:00～17:00 (入館は16:30まで)

主催：女子美術大学

女子美アートミュージアム  JOSHIBI ART MUSEUM

〒252-8538 神奈川県相模原市南区麻溝台 1900

女子美術大学 相模原キャンパス

TEL：042-778-6801 FAX：042-778-6815

WEB サイト：http://www.joshihi.net/museum/



「FAMILY PORTRAITS 日本・町田市のO家」  
デジタル銀塩プリント  
2015



「FAMILY PORTRAITS 韓国・釜山市のP家」  
デジタル銀塩プリント  
2016



「FAMILY PORTRAITS タイ王国・パタヤ市のP家」  
デジタル銀塩プリント  
2014

イユンジさんは、女子美術大学大学院 美術研究科修士課程デザイン専攻に入学後、一貫して東京に滞在する外国人のポートレート写真を撮り続けてきたが、博士後期課程に進んでからは、家族をテーマとした写真表現の研究を行った。

古代から美術作品には家族をテーマ、あるいは素材にした表現が多く見られるが、近代ヨーロッパにおいて特に頻繁に制作された時期があり、その中でも18～19世紀イギリスで流行した家族や団体の肖像画である「カンパセーション・ピース」に対して、イさんは着目して行った。

カンパセーション・ピースは絵画の一形式として、家族や友人の集合が表現対象となり、邸宅の屋内外を人物の背景として、彼らの日常の情景を描いたものであり、風俗画であると同時に集団肖像画の性格を持つと言われる。その代表的な作家として、ジョシュア・レイノルズやトマス・ゲインズバラ、ウィリアム・ホガースらの絵画表現から、家族の表現が時代の変化に呼応し変化していくと同時に、それぞれの時代の社会的特性によって、その基準が変わっていく中に永遠不滅のテーマとしての家族表現の意味を見出している。

産業化による急速な社会的変化を経て、現代社会の家族構造の形態にも変化が生じており、社会の基本的な集団である家族の形態は縮小化され、その家族感も時代と共に変わってきた。

現代の家族は、従来の血縁中心の家族と違って、血縁が必須条件ではなくなり、家族がもつ「絆」というものが重要になっていると、イさんは考えるに至った。

フランスの哲学者ロラン・バルトが著書「明るい部屋」(1980)で記述している「ノエマ」(古代ギリシャ語である「ノエマ」(Noeme)とは、本来では「意識」や「知覚」という意味をもつ言葉である)を引用し、写真において「ノエマ」は、現在が存在すると、写真も存在するという属性によって写真は指示性と認証作用をもつという考えを示している。

そうした考えの基に追求したテーマは、一緒に時間を共有してきた「家」という空間を背景に、家族という存在を被写体として写真を撮ること。その存在の記録だけでも社会的価値のあることだと確信し、自分の家族や身近な友人などの家族写真を撮ることに至ったのである。

作品は、日本と韓国、タイ王国の様々な家族を被写体とし、家族像の変化や各国の異なる価値観や文化観が読みとれる様子を写真として表現する事によって、社会学の家族論、特に現代の家族論に見られる家族の様子を表現した。そこには、文化観や価値観などの差異点を読みとれると同時に、家族という根本的な集団に共通する家族の間の「絆」を視覚的に表現したのである。

家族をテーマとした写真表現によって、現代の家族像を浮き彫りにしたイさんの作品は、研究成果としてここに確かに存在している。

2016年2月  
女子美術大学 山野雅之

イ・ユンジ LEE Yoonji

2007年 韓国 国立順天大学校 人文社会科学学部 写真芸術学科 卒業

2012年 女子美術大学大学院 美術研究科 博士前期課程 デザイン専攻・メディア研究領域 修了

現在 女子美術大学大学院 美術研究科 博士後期課程 美術専攻 デザイン領域 視覚造形 在学中